

「他教科等と道徳科をつなぐ単元づくり」授業実践

【1年生の実践①（10月実施）】

学習計画

【テーマ】いつも見守ってくれているひとへ かんしゃをつたえよう。

【ねらい】自分達をいつも見守ってくれている人がいることに気づき、感謝の気持ちを伝えると共に進んで気持ちのよい挨拶をしようとする態度を育てる。

次	時	教科等	単元名・ 教材名（内容項目）	学習活動
1	1	道徳科	どちらが いいかな （B礼儀）	○お互いが気持ちよくなるような挨拶や態度について考える。
	2 （本時）	道徳科	みどりのおじさん・ おばさん （B感謝、B礼儀）	○毎日見守ってくれている人の思いを知り、感謝や礼儀について考える。
2	3 4	学級活動	かんしゃのきもちを つたえよう	○感謝の気持ちを伝える方法を話し合ったり、準備をしたりする。

成果

- ・今まで見守りの方がいてくれるのは日常のことであまりまえだと感じている児童が多かったが、今回の道徳で見守りの方の思いを知ることができた。「安全を守りたい」「子どもたちの成長が楽しみ」といったその思いを知り、見守りの方への親しみと感謝の気持ちが高まった。
- ・授業後、見守りの方に大きな声で挨拶をしたり、話しかけたりする児童が増えた。
- ・1年生だけでなく、2年生でも2～4時の取組を行うことで、2学年一緒に感謝の気持ちを伝える手紙やプレゼントを贈ることができ、見守りの方に喜んでもらった。

課題

- ・見守りの方への親しみや感謝がその時限りにならないように、今後自分ができることについても考えさせた方がよい。

【1年生の実践②（11月実施）】

学習計画

【テーマ】かぞくのために じぶんでできることを ふやそう。

【ねらい】家庭では家族が役割を果たすことで生活が成り立っていることを知り、積極的に自分の役割を果たそうとする態度を養う。

次	時	教科等	単元名・ 教材名（内容項目）	学習活動
1	1	生活科	じぶんで できるよ	○1日の生活サイクルと、どんなことをしているかを振り返る。
	2	生活科	じぶんで できるよ	○1日の生活の中で、自分でしていることと、お家の人にしてもらっていることを考える。
2	3 (本時)	道徳科	ルン ルン ルン (C 家族愛、 家庭生活の充実)	○主人公や家族の気持ちを考えることを通して、自分を振り返り、家のお手伝いについて考える。
	4	生活科	じぶんで できるよ	○じぶんが家でできそうなことを考え、家の人がしていることや、してもらっていることを調べる。
	5	生活科	じぶんで できるよ	○家で自分ができることを考え、実施する計画を立てる。
3	6	生活科	じぶんで できるよ	○一週間ほど、家で自分でしたことの記録を取り、発表する。
4	7	道徳科	おふろばそうじ (A 希望と勇気、 努力と強い意志)	○家での仕事をしっかりと続けることができているかどうか振り返る。
5	8 \n13	国語科	おもい出してかこう	○「〇〇大作戦」でしたことを思い出して、順序に気を付けて書く。
6	14	生活科	じぶんで できるよ	○家でさらに続けたいこと、挑戦したいことを考え、冬休みに実施する計画を立てる。

成 果

- ・1～2時で一日の生活を振り返り、家の仕事がたくさんあることに気付かせることができた。
- ・「ルンルンルン」の学習を通して、テーマである「家族のために」という視点をもたせることができた。
- ・自分でできることを考えて「〇〇大作戦」と名付けて実行したことで、家族みんなが笑顔になることに気付き、家の手伝いをたくさんしようとする気持ちを高められた。
- ・「〇〇大作戦」実行中に「おふろばそうじ」の学習をし、自分の取組を振り返らせることができた。
- ・「〇〇大作戦」について学級通信で知らせ、家庭と連携して取り組むことができた。
- ・国語科の「おもい出してかこう」の順序に気を付けて書く学習で、「〇〇大作戦」で実際にした仕事について書いたので、文章をつくりやすかった。
- ・冬休みの家庭でする仕事にもつなげることができた。

課 題

- ・「〇〇大作戦」や冬休み中だけの期間限定の頑張りになった児童もいたので、家庭での仕事を継続してさせる手立てが必要。「手伝い」ではなく、「家族の一員としての仕事」という意識ももたせたい。

【1年生の実践③（1月実施）】

学習計画

【テーマ】日本に むかしからつたわるものを たのしもう！				
【ねらい】昔遊びを楽しむことで、日本の伝統や文化に興味をもち、昔から受け継がれてきたものを大切にしていきたいという心情を育てる。				
次	時	教科等	単元名・ 教材名（内容項目）	学習活動
1	1	道徳	ひむかかると （C伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度）	○宮崎県にひむかかるとがあることを知り、自分の郷土（唐津）のよいところを考える。
2	2 ～ 5	生活	からつかるたをつくろう	○唐津のよいところ（食べ物・場所・物など）を調べる。 ○調べた事柄から、かるたの文を考えて、絵を描く。 ○作ったかるたで、遊ぶ。
3	6 ～ 10	生活	むかしあそびをしよう	○凧を作って、凧あげをする。 ○老人会の方といろいろな昔遊びをする。
4	11	道徳	にっぽんのおかし （C伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度）	○日本のお菓子がもつよさや工夫を知り、日本には昔から受け継がれているものが他にもたくさんあることを知る。

成果

- ・「ひむかかると」の学習で、唐津かるたを作ってみたいという気持ちを高めることができた。
- ・唐津かるたを作る過程で、唐津のよさに気付かせ、郷土への愛着をもたせることができた。
- ・いろいろな昔遊びに親しみ、受け継がれてきた遊びのよさに気付くことができた。
- ・老人会の方ともよい交流をすることができた。
- ・「にっぽんのおかし」の学習を通して、遊びだけでなく、和菓子や文化など日本に受け継がれてきたものがたくさんあることに気付き、もっと知りたいという気持ちをもつ児童もいた。

課題

- ・「もっと知りたい」という児童の興味・関心を生かせるように、調べ学習など事後の取組があるとよい。

【2年生の実践①（11月実施）】

学習計画

【テーマ】 おにづか小校区のことを知って、おに小マップを作ろう！				
【ねらい】 鬼塚小校区の施設や施設で働く人について知り、自分たちの生活を支える働く人の仕事内容や気持ちを知ることができる。				
次	時	教科等	単元名・ 教材名（内容項目）	学習活動
1	1	生活科	町たんけん	○鬼塚小校区にどんな建物があるのか思い出し、出し合う。
	2 3	生活科	町たんけん	○鬼塚小校区にはどんな建物があるのかを見つけに行く。（1回目の町たんけん）
	4	生活科	町たんけん	○1回目の町たんけんで見つけたものをまとめる。
	5	生活科	町たんけん	○1回目の町たんけん疑問に思ったことをもとに、単元計画を立てる。
2	6	生活科	町たんけん	○鬼塚小校区の建物の中から自分が見学に行きたい場所を1つ決める。
	7 8	生活科	町たんけん	○見学に行く場所ごとのグループで聞きたいこと・体験してみたいことを出し合う。
	9 10 11	国語科	そうだんに のってください	○聞きたいことを質問する、インタビューのしかたを知り、練習をする。
	12 13	生活科	町たんけん	○町たんけんに行き、インタビューを通じて疑問に思ったことを解決する。
3	14	道徳科 (本時)	森のゆうびんやさん (C 勤労・公共の精神)	○町たんけん学んだ働く人について想起しながら、仕事をするには誰かの役に立ち、喜びに繋がっていることに気づき、自分も学級の仕事を通して誰かの役に立ちたいという心情を育てる。
	15 16 17	生活科	町たんけん	○町たんけんで見つけたことをまとめ、「おに小マップ」を作る。
	18	生活科	町たんけん	○町たんけんで見つけたことの報告会をする。

成 果

- ・生活科「町たんけん」と、国語科「そうだんにのってください」と関連して行うことができた。本時の位置づけも、町たんけんに行って働く人の様子を見てインタビューしたあとだったので、経験したことを思い出しやすかった。
- ・教材文だけでは理解が難しく、パワーポイントを使って理解を促したことで、登場人物になりきって気持ちを考えることができた。
- ・町たんけんで見たり聞いたことを想起しながら、自分たちの仕事（当番、係）などに結び付けて考えることができた。
- ・町たんけんでは、「働くのが大変そう」「働きたくない」と思っていた児童も、本時の振り返りでは「働くことはみんなが嬉しくなることだと分かった」と仕事に対する意識が変わっており、ねらいに向かった学習をすることができた。
- ・本時の学習後、学級での仕事（一人一役当番、係活動など）が活発になった。

課 題

- ・内容理解に時間がかかり、中心発問や振り返りの時間を十分に取ることができなかつたので、事前に読むなどの工夫をして後半の時間を確保したい。
- ・振り返りで、教材文に対する感想を書く児童がいるので、自分事として振り返ることができるようにしたい。よい振り返りを共有する時間を十分に設けたい。
- ・自分たちの学級での仕事に返って考える児童が多くいる中、なかなか自分の仕事と結びつけることができない児童もいたので、具体例を挙げるなどの工夫をして、自分事に振り返ることができるようにしたい。

【2年生の実践②（1月実施）】

学習計画

【テーマ】 自分のせい長について知り、せい長のきろくカードを作ろう！				
【ねらい】 自分の成長をふり返り、自分の成長を支えてくれた人の存在や自分との関わりに気づき、感謝の気持ちを伝えようとする心情を育てる。				
次	時	教科等	単元名・ 教材名（内容項目）	学習活動
1	1	道徳科	大きくなったね (D 生命の尊さ)	○服が入らなくなったことから、自分が成長したことに気づかせ、他に何ができるようになったか考える。
	2	生活科	これまでのわたし これからのわたし	○自分の成長を振り返る単元計画を考える。
	3 4	生活科	これまでのわたし これからのわたし	○「自分たんけんに出かけよう」を通して、自分がどんなことができるようになったか個人で振り返る。

	5	生活科	これまでのわたし これからのわたし	○冬休みの宿題でお家の人にインタビューをし、家族で幼少期について振り返る。
2	6 7	生活科	これまでのわたし これからのわたし	○インタビューの結果をもとに、誰にどのように支えられてきたか、イメージマップを作る。
	8 9 10	生活科	これまでのわたし これからのわたし	○これまでの成長について思い出カードにまとめる。
	11	道徳科 (本時)	ハッピー・バースデー (B 感謝)	○主人公の幼いころの経験を自分と照らし合わせ、自分の小さいころはどんな人に支えられたか想起し、感謝を伝えたい気持ちを高める。
3	12 13 14 15	生活科	これまでのわたし これからのわたし	○「せい長のきろくカード」を作成する。
	16 17 18	国語科	感謝をつたえる 手紙を書こう	○道徳科「ハッピー・バースデー」や成長のきろくカードを想起させ、自分の成長を支えてくれた人にありがとうを伝えるお手紙を書く。
	19	国語科	楽しかったよ、2年生	○「せい長のきろくカード」を友達や成長を支えてくれた人に紹介する。

成 果

- ・生活科「これまでのわたし これからのわたし」と、国語科「かんしゃをつたえる手紙を書こう」「楽しかったよ、2年生」と関連して授業を行うことができた。
- ・生活科でイメージマップを通して関わってくれた人についてまとめたり、道徳科「大きくなったね」で自分が成長できたのは周りの人のお陰であると気づいたりしたことで、本時の内容も深まり、児童から自然と「支えてくれた」という言葉が出てきた。
- ・友達タイムでは、ペアで友達タイムの観点に沿って会話を続けることができた。
- ・本時の後の生活科で、感謝の手紙を書きたいと児童から自然と出てきた。また、保護者にも児童宛ての手紙を書いてもらうことで、多くの人を支えてくれたことに改めて気づくことができた。
- ・かぞくでタイムを通して、支えてくれた人について家族で話した児童も多く、更に内容が深まった。

課 題

- ・授業研の時期の関係で、学習計画で本時の位置づけを生活科のイメージマップを書いた後にしていたが、「せい長のきろくカード」が完成して、より一層周りの人への感謝が高まったところで本時を行うと、もっと支えてくれた人について深めることができたかもしれない。
- ・冬休みの宿題を通して、お家の人に幼少期の自分について話を聞くようにしていたが、十分に話すことができた家庭と、できていない家庭とで差が大きかった。妊婦さんからの授業をしてもらうなど、全員が幼少期について知ることができる手立てを考えたい。

【3年生の実践①（5月～2月実施）】

学習計画

【テーマ】 わたしの地域のすてきなところを見つけよう。				
【ねらい】 身近な地域のすばらしさを実感し、郷土への誇りや愛着を育む。				
次	時	教科等	単元名・ 教材名（内容項目）	学習活動
1	1	社会	わたしたちのまち みんなのまち	○町探検して調べたことを「土地の様子」「交通」「公共施設」に着目して白地図にまとめ、地域の様子について知る。
	2	社会	農家の仕事	○市でつくられている作物を調べ、一年間の仕事や美味しく作るための工夫についてまとめる。
2	3	総合	大谷川たんけん	○村民総出で山を貫き、農業用水路として使われ続けている大谷川隧道を見学し、川に生息する生き物と触れ合うことで地元のことを知り、愛着心をもつ。
	4	総合	「なして、おんつか？」	○身近な地域の歴史や言い伝えを知り、郷土に愛着をもつ。 ○郷土について学んだことを人形劇で発表する。
3	5 (本時)	道徳科	これ、全部東京産 C 伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	○地元のことを大切にしたり、守っていこうとしたりする気持ちがあることを理解し、郷土を大切にしようとする態度を養う。
	6	総合	おにつかのたから	○今まで学習した、鬼塚の歴史や自然、人々の思いなどについて振り返り、鬼塚の宝物をまとめて発信する。

成果

・「なして、おんつか」などの地域学習とは違う視点で、郷土について道徳で学ぶことができ、広がりが見られた。

課題

- ・「これ、全部東京産」を「なして、おんつか？」から間をあげずに実施してもよかったようにも思う。
- ・社会科との関連を考えると、第3学年だけでなく第4学年にも関わる学習計画を立てられるのではないかと考える。

【3年生の実践②（1月～3月実施）】

学習計画

【テーマ】 「おにつかのたから」を紹介しよう ～来年の3年生と先輩の4年生に学びを伝えよう～				
【ねらい】 身近な地域のすばらしさについて2年生や4年生に伝えることで、郷土への誇りや愛着を育む。				
次	時	教科等	単元名・ 教材名（内容項目）	学習活動
1	1 ～	社会科	わたしたちの唐津市	○唐津市の特徴や地域ごとの特産品などについて知る。
	15	国語	しらせたいな、すきな時間	○発表（スピーチ）の仕方を知る。
2	16 ～ 30	総合的な 学習の時間	おにつかのたから	○今まで学習した、「鬼塚の地域や歴史」、「大谷川」、「なしておんつか」を通して考えた「鬼塚の宝」について、2年生と4年生に伝える。
		国語科	考えと理由	○自分の考えの伝え方や説得力のある理由について知る。
		道徳科	地域を語ろう C 伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	○自分が住んでいる地域の生活や環境に目を向け、地域に親しみ、郷土を大切に思う心を育む。
		道徳科	みんなのわき水 C 規則の尊重	○みんなで使う場所を大切にすることのよさに気づき、自ら進んで公共のために行動しようとする意欲を育てる。
3	31	総合的な 学習の時間	「おにつかのたから」 ふりかえろう	○学習したことを振り返り、自分の思う「おにつかのたから」についてまとめを書く。

成果

- ・総合的な学習での学びと他教科の関連を意識することができたのは今年度の成果であった。
- ・学習計画として児童に示す際に、短期的な計画（総合的な学習）と既習事項（他教科）をいかすことをラーニングマウンテンにて提示することで学びの復習になった。

課題

- ・学期をまたぐ学習となることや、総合的な学習の取り組み中に他教科の学習を実施するため、学習計画としての記入の仕方が難しく感じた。

【4年生の実践①（10月実施）】

学習計画

【テーマ】 郷土の伝統や文化を知り、佐賀県のじまんを伝えよう。				
【ねらい】 郷土に受け継がれている伝統や祭りには様々な人々の思いや願いが込められていることに気づき、郷土への誇りや愛着を育む。				
次	時	教科等	単元名・ 教材名（内容項目）	学習活動
1	1	道徳科	浮世絵 ～海をわたったジャパン・ブルー～ (C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)	○我が国の絵や芸術などの文化が、世界の人々に感動を与えていることを理解し、誇りをもつとともに、我が国の文化に関心や親しみをもとうとする心情を育てる。
2	2～7	社会科	特色ある地いきと人々のくらし	○県内の特色ある地域について調べ、伝統産業や特産物について知る。
3	8 (本時)	道徳科	唐津のまつり	○唐津の様々な祭りについて知り、それを守り受け継いでいる人々の思いを考えることを通して、唐津への愛着を深め伝統を守っていききたいという心情を育てる。
4	9～12	社会科	きょう土の伝統・文化と先人たち 残したいもの伝えたいもの	○郷土に残る伝統や祭り、文化財などについて調べる。

成果

- ・唐津の様々な祭りについて知り、それを守り受け継いでいる人々の思いを考えることができた。
- ・唐津やまつりについてもっと調べてみたいという意欲が次の社会への学習につながった。
- ・唐津くんちの前ぐらいの時期に実施して、唐津くんちへの興味・関心を高めることができた。

課題

- ・国語の「未来につなぐ工芸品」とも関連させて、学習計画を立てるとよかった。
- ・鬼塚にはおまつりがないので、自分事として具体的に考えさせたり、身近に考えさせたりするのが難しい。
- ・唐津くんちに関わっている子どもや家族に話をしてもらったり、ヤマを引いている先生にインタビューをしたりすると、もう少し深まるかもしれない。

【4年生の実践②（1月実施）】

学習計画

【テーマ】自分の成長を振り返り、家族に感謝の気持ちを伝えよう。				
【ねらい】自分の成長や生活が多くの人々の支えによって成り立っていることに気づき、感謝の心をもって生活していこうとする態度を育てるとともに、家族に感謝の気持ちを伝える。				
次	時	教科等	単元名・ 教科名（内容項目）	学習活動
1	1 2	保健	育ちゆく体とわたし	○これまでの自分の成長について知る。
2	3	総合的な 学習の時間	「みんなが幸せ」プロジェクト ～自分の成長～	○これまでの自分の成長について考える。
3	4	道徳科	朝が来ると（B感謝）	○自分の生活を支えてくれているさまざまな存在に気づき、感謝の気持ちを伝えたいという思いをもつ。
4	5 6 7	国語科	自分だけの詩集を作ろう 言葉から連想を広げて	○家族への感謝の気持ちを伝える詩を考える。
5	8 9 10	総合的な 学習の時間	「みんなが幸せ」プロジェクト ～自分の成長～	○家族に自分の4年生での成長や感謝の気持ちを伝える。

成果

- ・マウンテンを掲示して取り組むことでゴールを意識して学習できた。(1月の授業参観がゴール)
- ・「当たり前のこと」への感謝を意識しながら、家族への感謝の詩を考えることができた。
- ・感謝は思うだけではなく、伝えることが大事だと気づいた子がたくさんいた。
- ・最後に授業参観でお家の方に自分の成長を発表したり、感謝の詩を渡したりして、達成感を味わうことができた。お家の方にも好評だった。

課題

- ・3学期にマウンテンを提示したので、2学期に保健の学習に取り組む時から意識しておくともっと深めることができたと思う。
- ・自分の成長を中心に考えたが、友達の成長を見つかけ合う活動ができるともっとよかった。

【5年生の実践①（10月～11月実施）】

学習計画

【テーマ】 めりはりをつけて楽しく思い出に残るようなバス旅行でグローアップしよう！				
【ねらい】 いつもと異なる環境で見聞を深め、よりよい人間関係を築くための体験を積む。。				
次	時	教科等	単元名・ 教材名（内容項目）	学習活動
1	1～6	社会科	情報産業とわたしたちの 暮らし	○放送局で働く人は、どのようにしてわたしたちに情報を届けているかを調べたり、まとめたりする。 ○日常生活や様々な職業で情報がどのようにして生かされているかを調べたり、まとめたりする。
2	7	学活	バス旅行のグループを 決めよう	○バス旅行の行き先や日程を大まかに確認する。 ○バス旅行のグループを確認し、グループのめあてと役割を決める。
	8	道徳科	真由、班長になる	○集団で活動する大切さや難しさについて考える。 ○みんなが気持ちよく集団生活をするために大切にしたい心構えについて話し合う。
	9	学活	バス旅行の準備をしよう	○バス旅行の日程やルールを確認する。（事前指導） ○バスレクの準備をする。
	10	学校行事	バス旅行	○放送局（NHK・KBC） ○マリンワールド（バックヤードツアー）
3	11	学活	バス旅行を振り返ろう	○バス旅行を通して、身に付いた力や成長したことをグループで話し合い、交流する。

成果

- ・グループの中で、一人一役割り振っていたため、道徳科の学習をもとに、班の中で自分ができることを見つけて行動する児童が多かった。
- ・マリンワールドのバックヤードツアーで多くの海の生物を守り育てる大変さを体感することができたため、下記の実践②にスムーズに繋げることができた。

課題

- ・バスの運転手さんをはじめ、放送局やマリンワールドで働く人をたくさん見たため、キャリア教育の観点から「働くことの意味」について取り上げている道徳の学習ができればよかった。

【5年生の実践②（11月～1月実施）】

学習計画

【テーマ】SDGs17の目標を達成するために私たちができること 持続可能な社会を目指して				
【ねらい】みんなが幸せな社会へと変えるために自分たちにできることを考え、具体的な行動を起こそうとする。				
次	時	教科等	単元名・ 教材名（内容項目）	学習活動
1	1	道徳科	ひとふみ十年	○自然は長い年月をかけて現在に至ることを知る。 ○自然を守ることの大切さと難しさに気付く。
	2	総合的な学習の時間	SDGsとは何か知ろう	○SDGsとは何かを知る。 ○動画を視聴し、国際的な問題について関心をもつ。
2	3	道徳科 (人権週間)	合理的はいりよって どうということ？	○身の回りの合理的配慮について考える。 ○合理的配慮について、公平の概念から捉える。
	4 (本時)	道徳科	イルカの海を守ろう	○地元の人たちはどんな考えからイルカの海を守っていかうとしているか考える。 ○自然環境を守るために、私たちにどんなことができるか考える。
3	5~7	総合的な学習の時間	テーマを決めて、調べよう	○各グループでテーマを決めて、調べる。
	8	総合的な学習の時間	SDGsについて学んだことを発信しよう。	○クラスで発表をする。
	9	総合的な学習の時間	SDGsの学習を振り返ろう。	○学習したことを振り返り、これから自分にできることを考える。
4	10~ 20	社会科	わたしたちの生活と森林環境を守る わたしたち	○森林資源がどのように利用されているか考える。 ○京都府鴨川の水質の変化について考える。

成果

- ・道徳科の「4つの心」とSDGsの番号をリンクさせながら授業を展開することができた。
- ・道徳科を通して、公平な態度や自然環境を守るためにできることを考えたことで、総合的な学習の時間の調べ学習では、テーマについて問題意識をもって、調べ学習を行うことができた。

課題

- ・道徳科の「4つの心」とSDGsの番号をリンクさせながら授業を展開することができた。2次3時の道徳科「合理的はいりよってどうということ？」が自然について考える道徳科の教材に挟まれているため浮いているように感じた。改善案として、学習計画の終盤に配置したり、自然愛護の前後に置いたりする。

【6年生の実践①（4～2月実施）】

学習計画

【テーマ】 自己の生き方を考える				
【ねらい】 様々な人の生き方に触れる学習を通し、働く良さや夢や希望をもつことの大切さ、目標をもつが故に直面する困難とそれを乗り越える努力の重要性などを学び、児童のより積極的で前向きな自己像の形成を目指す。				
次	時	教科等	単元名・ 教材名（内容項目）	学習活動
1	全6	国語科	聞いて、考えを 深めよう	○インタビューをして、自分の考えと比べて聞く。
2	7	道徳科	ウイルスとの戦い (C 勤労、公共の精神)	○仕事には、社会や他者への貢献、自分にとっての使命感ややりがいがあることに気づき、その意義について考える。
3	8	道徳科	地球を一周歩いた男 (A 真理の探究)	○真理を明らかにするには、現状に満足するのではなく、改良したり、発展させようとしていたりする思いが必要であることを学ぶ。
4	9～ 13	社会科	町人の文化と 新しい学問	○天文学や測量術を学んだ伊能忠敬が正確な地図作成するなど、優れた学者が活躍する時代について学ぶ。
5	14	道徳科	上村さんの ちょうせん (A 希望と勇気、努力と 強い意志)	○目標に向かって、やりがいをもって努力し、あきらめない心の大切さについて考える。
6	15 (本時)	道徳科	ips 細胞の 向こうに (A 希望と勇気、努力と 強い意志)	○より高い目標を掲げ挑戦することのよさについて考える。
7	16	総合的な学 習の 時間	キャリアデザイン	○身近な人や家族に仕事への思いについてインタビューし、自分の将来について考える。

成果

- ・様々な人がどんな思いで、働いているのか、困難を乗り越えるために大切な考えを考えることができた。
- ・将来の自分について興味関心を高めることができた。

課題

- ・質問する相手は、学校関係者が多かった。もっと別業種や幅広い職種の方に質問・インタビュー

- 一する機会を作ると、就労への関心がより高まったと考える。
- 具体的な夢や目標が定まっていない児童が多く、自分事として考えさせることが難しかった。

【6年生の実践②（7～3月実施）】

学習計画

【テーマ】 お世話になった人へ感謝を伝える				
【ねらい】 小学校6年間で振り返り、お世話になった人や物に感謝を伝えようとする心情を育む。				
次	時	教科等	単元名・ 教材名（内容項目）	学習活動
1	1	道徳科	おかげさまで （感謝）	○自分たちの生活が多くにつながりで支えられていることを理解し、何に対しても感謝の気持ちを忘れず生活しようとする心情を育てる。
2	2	道徳科	その思いを受けついで （生命の尊さ）	○生命は多くにつながりや支えによって生まれ、子どもや孫へと受け継がれていくかけがえのないものであることに気づき、自他の生命を尊重していこうとする心情を育てる。
2	3～ 8	家庭科	こんだてを工夫して	○保護者に献立をつくりに関するインタビューをしたり、自分で栄養バランスの良い献立を作ったりする。
3	9	道徳科	アスリート感謝の言葉 （感謝）	○支え合いや助け合いなど多くの中でのつながりの中で生きており、そのつながりが大きな力や元気、安心を与えてくれることに感謝し、自分もそれに応えようとする態度を育てる。
4	10～ 19	総合的な学習の時間	お世話になった方へ感謝の気持ちを伝えよう	○お世話になった方に感謝を伝える方法を考え、発表したり、手紙を書いたりする。

成果

- ・多くの人に支えられていることを知り、自分も相手に返そうとする心情を高めることができた。
- ・献立作りの取材をする中で、家の人の思いや工夫を感じ取り、感謝して日々の食事をとろうとする気持ちをもつことができた。
- ・命のつながりを知り、命を授かったことに感謝し、精一杯生きたいという心情が育った。

課題

- ・授業内で感謝について考えることはできたが、日々の生活の中で言葉を伝えられる児童が少なかった。小さなことでもお礼を言い、気持ちの良い関係を築くことが大切だと感じた。